

ベストメンテナンスで機器もリフレッシュ！

プレートセッター

T-6300CTP / T-6500CTP / T-6500CTP N / T-9500CTP N /
T-9500CTP NII / T-9800CTP HD / T-9800CTP HDN

●長期停止前の準備

- オートローダーを使用の場合は、プレートを使い切るようするか、箱に戻して密封保管してください。

《注意》 夏場の高湿期では合紙が吸湿し、波うち状態となって給版不良になる場合があります。

- パンチ屑の回収および本体各部を清掃してください。
ドラム、クリーニングローラー、外装カバーフィルター、チラー用フィルター、コンベアベルトなど
※機種により異なります。詳細は取扱説明書を参照してください。
- 元電源のブレーカーを OFF にします。

●長期停止後の運転

- 空調と本体電源は早めに投入し、ウォーミングアップ時間として 2 時間以上取るようにしてください。

《注意》 寒冷期は室温が上がっても本体はまだ冷えており、ウォーミングアップに数時間要する場合があります。
※本体が冷えた状態で使用しますと刷版品質に影響する場合があります。品質を維持するため、以下の環境条件で使用してください。

 - 温度：23 ± 2°C
 - 湿度：40 ~ 70% (T シリーズ機)

- 絵柄を露光して現像処理し、露光品質を確認してください。

PS プロセッサー / CTP プロセッサー

PS-940VII/PS-940NII/PS-1310VII/PS-1310NII
XP-940R / XP-940TG / XP-1310R / XP-1310TG / XL-940 /
XL-1310
LP-940HII / LP-1310HII

洗浄・液仕込みの際は、必ずゴム手袋、保護メガネおよびゴムエプロンを使用してください。また、電源は OFF してください。

●長期停止前の準備

- 処理タンク内の現像液、水洗水、フィニッキングガムを排液し、回収します。
 - スプレーパイプ、搬送ローラー、ローラー側板などを取り外し、清掃してください。
搬送ローラーはウエスで水洗いしますが、汚れが落ちにくい場合は、クリームクレンザーを使用してください。
- ※推奨品：ジフ (ユニリーバ・ジャパン株式会社製)

長期停止時の機器メンテナンスのポイント①

また、スプレーパイプの吐出穴が詰まっている場合は、クリップなどの先が尖ったもので取り除いてください。

- 各処理タンクを水洗いしてください。

《注意》 液交換・タンク清掃時の洗浄水は、2 回目循環水までは廃液として回収してください。

- 現像部入口センサー、乾燥部出口センサーおよびリエントリーセンサーを乾いたウエスで清掃します。(リエントリーセンサー搭載機種：PS-940VII/NII、PS-1310VII/NII)
電導度センサーを使用している装置は、取扱説明書を参照して清掃してください。
- 現像部、水洗部およびフィニッキング部のフィルターを清掃してください。
※ FLV-68J は現像／水洗フィルターを交換します。
- 搬送ローラー等、取り外したすべての部品を取り付け、各タンク内に水を注入します。

《注意》 現像部に 45°C 前後の温水を入れると、安全機構が動作し、エラーとなる場合があります。温水を注入する場合は 40°C 以下にしてください。

- 処理部の駆動軸ウォームギア、駆動シャフト部およびスラストベアリング部の古い潤滑剤（グリース）を拭き取り、新しく塗り替えてください。
※専用品：サンコール LEN-317F (サンケイ化学製)

《警告》 必ず装置の電源を切ってから行ってください。

- 水垢発生の予防策として水垢防止剤を水洗タンク内に 20cc 添加し、5 分程度循環させます。
また、給水タンク内にも 20cc の水垢防止剤を添加します。
- ローラーのロックレバー／固定金具は必ず解除状態にしてください。
- 装置内の結露を防ぐため、上蓋を少しづらしておいてください。
- 元電源のブレーカーを OFF し、給水元栓を開めてください。

●長期停止後の運転

- 元電源のブレーカーを ON し、給水元栓を開きます。
- ローラーのロックレバー／固定金具をロックします。
- 各処理タンク内の水を排水します。
《注意》 水洗タンク内の水は、廃液として回収してください。
- 現像補充液、フィニッキングガム補充液、水垢防止剤および給水タンク内の水が十分に入っていることを確認します。
- 新液仕込み手順に従い、現像液、水洗水、フィニッキングガムを仕込みます。
- 液もれ・水もれがないか、配管系を点検してください。
- 絵柄を露光した版を現像処理し、処理品質を確認してください。

廃液削減装置システム機器

XR-2000 / XR-5000 / XR-5000R II / XR-1200J
XR-R60

●長期停止前の準備

取扱説明書の「連休時の留意事項」を参照してください。

- 終業日の前日につけ置き洗浄を実施します。
- 終業日につけ置き洗浄水を排水します。
つけ置き洗浄操作を完了してください。
- 手順に則りつけ置き操作を完了してから電源を切ります。
- 本体ブレーカーを OFF にします。
※ XR-R60 は給水元栓を閉めてください。

●長期停止後の運転

取扱説明書の「連休時の留意事項」を参照してください。

- 本体ブレーカーを ON にします。
- つけ置き洗浄バルブの向きを確認します。
青（洗浄水）が横、赤（処理液）が縦になっている事を確認してください。
- XR-R60 を使用している場合は、
水垢防止剤の量を確認して、給水元栓を開けてください。
- XR(XR-R60) の運転を ON にします。

△ 警告	
	点検時の電源 装置の点検時には必ず電源スイッチを切ってください。

△ 注意	
	保護具着用 現像液、定着液、その他の処理薬品を取扱うときは、保護メガネ、ゴム手袋、ゴムエプロンを着用してください。

製版フィルムプロセッサー

FG-710 シリーズ / FG-800FK / FG-950F

洗浄・液仕込みの際は、必ずゴム手袋、保護メガネおよびゴムエプロンを使用してください。また、電源は OFF してください。

●長期停止前の準備

- 現像・定着・水洗の各ラックとクロスオーバーガイドを取り外し、洗浄と点検を行ってください。不良部品がある場合は、交換してください。
- 各処理タンクに水または温水を注入し、5 ~ 10 分程度循環させてタンク内を洗浄します。

《注意》 現像部に 45°C 前後の温水を入れると、安全機構が動作し、エラーとなる場合があります。温水を注入する場合は 40°C 以下にしてください。

- 各フィルターを交換します。
- 駆動軸周辺を清掃した後、ギアの古いグリースを拭き取り、新しく塗り替えてください。
※専用品：サンコール LEN-317F (サンケイ化学製)
- 警告 必ず装置の電源を切ってから行ってください。
- 現像・定着・水洗の各ラックをタンク内にセットします。
- 元電源のブレーカーを OFF し、給水元栓を開めてください。

●長期停止後の運転

- 元電源のブレーカーを ON し、給水元栓を開きます。
- 現像ラックおよび定着ラックを取り外します。
- 現像液、定着液、水洗水を仕込みます。
《注意》 処理液の仕込みの際、定着液が現像液中に混入するのを防ぐため、定着液を先に仕込みます。
- 現像ラックと定着ラックを各タンク内にセットし、クロスオーバーガイドを取り付けます。
- 上蓋をセットし、装置の電源を ON します。
- 始動時に不要な補充が入る場合がありますので、稼動データをクリアします。
※ INTEGRA：補充装置の MDR クリアを行います。
- 液もれ、水もれがないか、配管系を点検してください。
- 絵柄を露光したフィルムを現像処理し、処理品質を確認してください。